



## 餅つきを通じて地域との交流深める

航空自衛隊車力分屯基地で餅つき行事が行われ、車力基地協力会や近隣町内会、米陸軍関係者など約60人が参加し、2026年もいいご縁が続くよう願いを込めて、5回ずつ威勢よくきねを振り下ろしました。

餅つき後の食事会では、つきたての餅があんこや砂糖醤油で振る舞われ、参加者一同、楽しい時間を共有し交流を深めました。

12/16

航空自衛隊  
車力分屯基地

小林丈人基地司令から表彰を受けた菊地さん(左)



威勢よく餅をつく参加者

また、この日、11月に開催された「食と産業まつり」で来場者から募集した、基地の食堂で隊員が食べているしうが味噌味の唐揚げのネーミング総選挙の結果発表も実施。自衛隊員が我慢強く頑張っている姿をイメージして考案した菊地恒夫さんの「じょっぱりアゲ」が見事グランプリに輝きました。

## 「つが・る」の動詞で表現した作品が50種類に到達

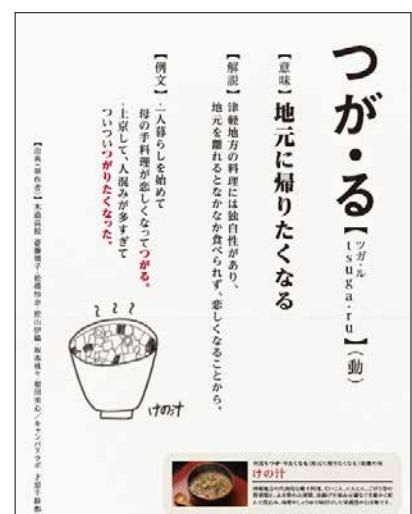
木造高校の生徒と首都圏の女子大生プロジェクトチーム「キャンパスラボ」が、若者の視点で市のさまざまな魅力を「つが・る」という新しい動詞で表現するプロジェクト「新解釈つがる。辞典」。この作品数が、50種類に到達したことを記念し、人気投票が行われました。展示会場となった市立図書館での投票とオンライン投票の結果、「地元に帰りたくなる」という意味が込められた作品が大賞に選ばれました。

この日、木造高の生徒4人と三上保校長、キャンパスラボのメンバー2人が市役所を訪れ、投票結果の報告や参加した感想を述べました。

キャンパスラボの原田菜月さんは「多くの魅力をつがるの皆さんに認識し、言葉に表した結果だと思う」と話し、木造高3年の工藤颯太さんは「このプロジェクトを通して、自分の知らないつがる市の良さや魅力を新たに発見できた」と話しました。



アワードの結果を報告した木造高校生とキャンパスラボの皆さん



大賞に選ばれた作品

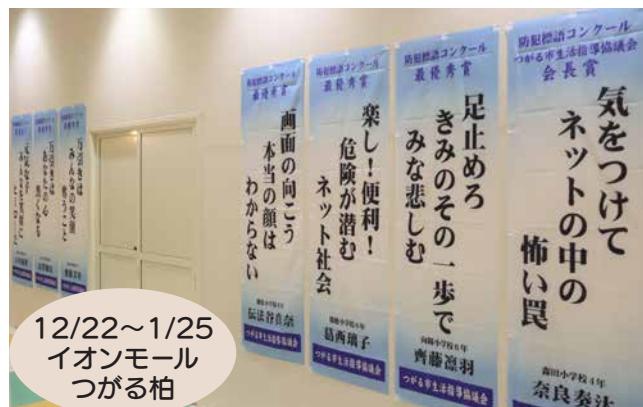
「新解釈つがる。辞典」の作品については、下記QRコードからご覧になれます。





## 市防犯標語コンクール 入賞作品展示

一人一人が住みよい社会をつくるために犯罪をなくす強い意志を持ち、防犯の心を培うことを目的に市防犯標語コンクール(市生活指導協議会・市防犯協会主催)が行われ、市内各小学校からの応募の中から最高賞の市生活指導協議会会長賞と、最優秀賞6点を決定。



のぼり旗にして展示された標語

会長賞には、森田小学校4年生奈良奏汰さんの「気をつけて ネットの中の怖い罠」が輝きました。受賞した7つの標語は、のぼり旗にしてイオンモールつがる柏1階ブランドショップハピネス隣の壁面に1月25日まで展示され、子どもたちをはじめ広く市民の犯罪防止に向けた意識啓発に役立てられました。

最優秀賞受賞者は次のとおりです。(敬称略)

▽向陽小6年 齋藤 澄羽	瑞穂小6年 葛西 璃子
穂波小6年 伝法谷真奈	柏 小6年 齋藤 美羽
車力小6年 金澤 魅紅	稻垣小6年 長内 麗夢

## 防災への決意新たに 消防団出初式

新春恒例の「つがる市消防団出初式」が、市役所周辺で開催されました。

出初式には56分団約900人の消防団員と56台の消防車両が参加。雪が舞う中、観閲者の倉光市長による服装点検を受けた団員らは、勇壮な分行列進を披露し、本年の活動に向けて士気を高めました。

松の館で行われた式典では、倉光市長が「実効ある働きができるよう、たゆまぬ訓練と知力を合わせて困難に立ち向かってください」と団員らを激励。続いて三浦孝純消防団長が「常に出動できる体制を維持するとともに、地域住民の防災意識の高揚と火災予防に一層努めてほしい」と訓示を述べました。

また、出初式に先立ち、倉光市長、三浦消防団長、工藤康人消防長が、三新田神社で今年一年の無火災を祈願しました。



雪の中、颯爽と分行列進を披露する消防団員ら

## 文化財防火デーに合わせ防火訓練を実施



放水訓練をする消防隊

毎年1月26日は、昭和24年に発生した法隆寺金堂火災を契機として制定された「文化財防火デー」です。全国各地で、貴重な文化財を火災や災害から守るための取り組みが行われるこの日に合わせ、市では、市指定文化財である旧制木造中学校講堂において、火災の発生を想定した消防訓練を実施しました。

訓練では、建物内において教育委員会の職員が119番通報・初期消火および避難訓練を行い、消防隊が旧制木造中学校講堂に向けて一斉放水を行いました。

訓練を終え、市消防署の菊地弘樹署長は「火災発生時には、人命を最優先に守ることを基本とし、身体の安全確保、次いで財産の保全に努めることが重要です。本訓練を通して、役割分担をあらためて確認することができました。今後も継続して取り組んでいただきたい」と話し、参加者は貴重な文化財を火災から守る意識を高めました。